（概要版）

高等学校キャリア教育における基礎的・汎用的能力を育成する指導の工夫

ー評価を位置付け、行事及び事前・事後指導の充実を図る系統的なキャリア教育実践プログラムの作成・活用を通してー

長期研修員　野口　裕之

研究の概要

本研究は、高等学校における３年間を見通した系統的なキャリア教育の充実により基礎的・汎用的能力の育成を目指すものである。具体的には、高等学校で実施されることの多い学校行事に着目し、当該行事の場面だけでなく、事前及び事後指導の各段階に評価を明確に位置付けたキャリア教育実践プログラムを作成・活用することにより、生徒が身に付けた能力を実感できる活動と教員による組織的な指導とを実現し、基礎的・汎用的能力の育成を図る。

研究の背景

高等学校キャリア教育における課題

- 3年間を見通した系統的な指導を展開する必要がある。
- キャリア教育の成果を把握する評価を改善する必要がある。
- 学校行事等における事前・事後指導を充実させる必要がある。

対　応　策

評価を位置付け、事前及び事後指導の充実を図る 系統的なキャリア教育実践プログラムの作成・活用により、基礎的・汎用的能力を育成する。

キャリア教育の再定義（中央教育審議会答申より）

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

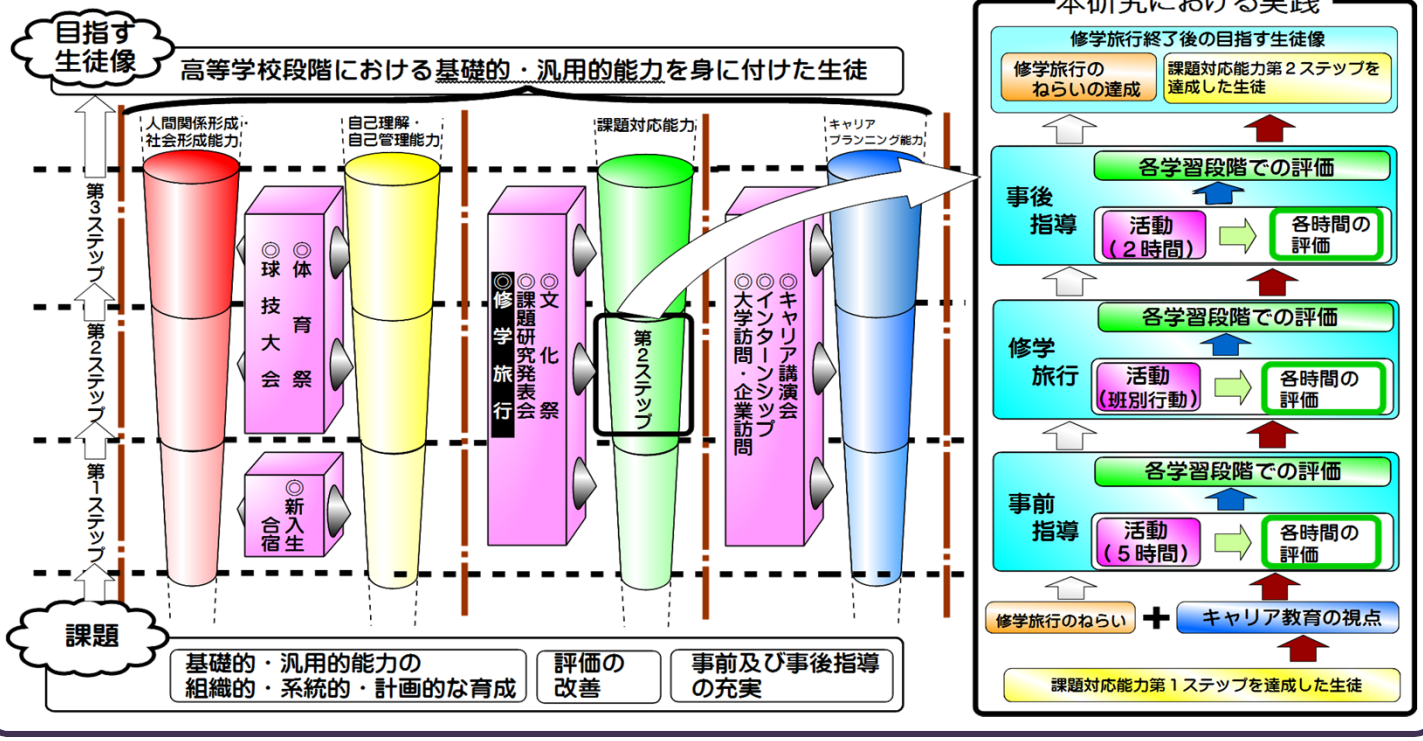
基礎的・汎用的能力とは

分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力。

具体的な能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
要素	他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ　等	自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動　等	情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善　等	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、進路選択、行動と改善　等

（平成23年　中央教育審議会答申より）

研究構想図



事例：基礎的・汎用的能力（課題対応能力第2ステップ）を修学旅行で育成する指導の工夫

工夫①　系統的な基礎的・汎用的能力の育成

Point Ⅰ　学校行事を活用した3年間の系統的なプログラムを作成しました。

県内高等学校の学校行事を調査し、多くの学校で実施されている学校行事を九つ抽出しました（研究構想図参照）。そして、3年間で系統的に基礎的・汎用的能力の育成を目指すプログラムを行事ごとに作成しました。

Point Ⅱ　基礎的・汎用的能力を三つの枠組みに整理しました。

基礎的・汎用的能力の育成に当たり、中央教育審議会答申等のキャリア教育に関する文献を参考に、「人間関係形成・社会形成能力」と「自己理解・自己管理能力」は強い関連性をもつととらえ、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」と併せ三つの枠組みに整理しました（研究構想図参照）。

Point Ⅲ　3ステップによる基礎的・汎用的能力の育成を目指しました。

高等学校段階の目標を3ステップに分け、段階的に基礎的・汎用的能力の育成を目指しました。

課題対応能力の育成（例）

高等学校段階における目標	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力を養う。
第3ステップ	現状を改善するための課題を発見し、その課題を解決するとともに、次への課題を発見することができる。
第2ステップ	課題に対して、適切な計画を立てて、その課題を処理するための方策を立案することができ、課題解決に向けて行動することができる。
第1ステップ	課題を発見し、分析することができる。

工夫③　行事及び事前・事後指導の充実

Point Ⅰ　各ステップの目標を細分化しました。

身に付けさせたい能力の習得のため、各ステップの目標を細分化し、各時間ごとに目標を設定しました。

課題対応能力第2ステップの目標の細分化（例）

段階	時間	身に付けさせたい能力	各時間ごとに細分化した目標
事前指導	1	プロセスの理解	課題解決の手順を理解し、効率よく作業ができるようにする。
	2	テーマの設定	修学旅行にふさわしいテーマを設定できるようにする。
	3	課題の設定	テーマを分析し、疑問点を見つけ、その疑問点に関する課題を設定できるようにする。
	4	計画の立案	課題を分析し、課題解決に向けて有効な計画を立てることができるようにする。
	5	方策の立案	課題を分析し、課題解決に向けての効果的な方策を立てることができるようにする。
行事	班別	課題対応能力第2ステップ	事前学習で立てた計画と方策を実行する。
事後指導	1	報告書作成手順の理解	行事を振り返るための報告書の作成について目的と手順を理解する。
	2	報告書へのまとめ	行事を振り返り、活動の結果を分かりやすく報告書にまとめる。

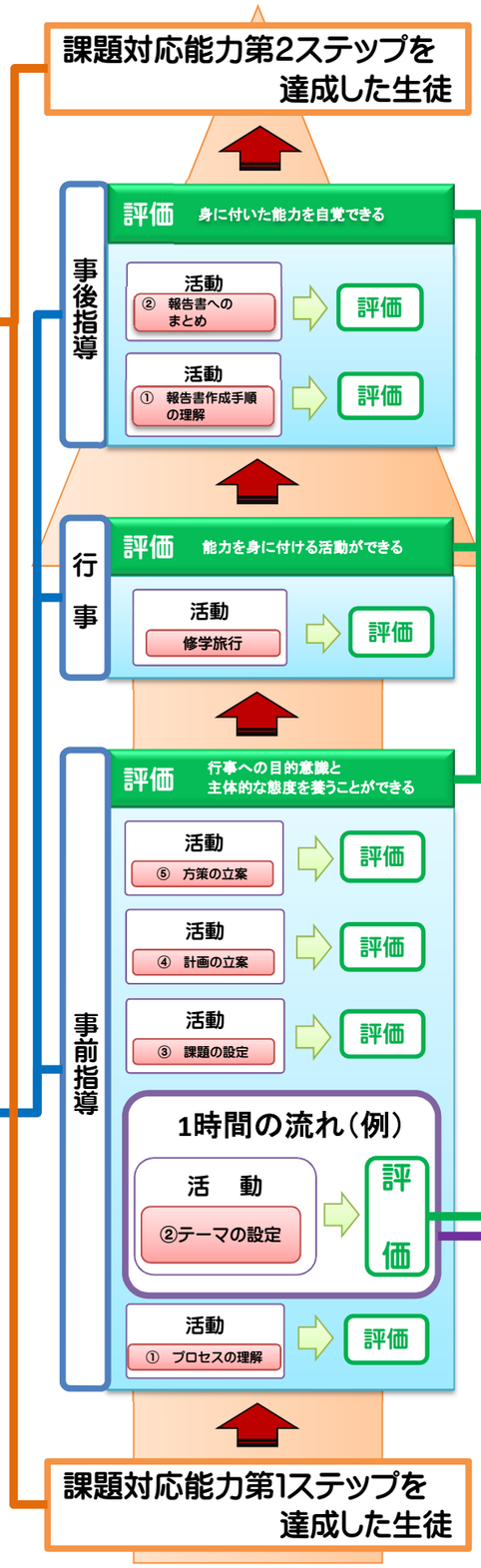
Point Ⅱ　教員の指導に役立ち生徒の主体的参加を促す指導計画を作成しました。

生徒が主体的に活動できるように工夫した概要版と詳細版とから成る指導計画を作成しました。話し合い活動や報告会等の活動の流れが、指導者にとって分かりやすくなるように配慮しました。

指導計画の内容

指導計画の概要版
全体の流れが把握できます
構成
- 各行事の目的
- 各行事におけるキャリア教育の目的
- 実施時期
- 指導計画の概要（行事及び事前・事後指導の内容及び評価方法）

指導計画の詳細版
各時間ごとの流れが分かります
構成
- 各学習段階における目標
- 毎時間の指導計画及び評価方法
- 各時間のワークシート
- 生徒の振り返りシート
- 教員の評価シート
- 活動で使用する資料

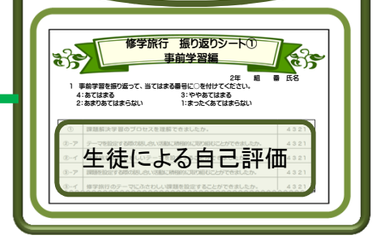


工夫②　評価の明確な位置付け

Point Ⅰ　設定した目標ごとに評価を明確に位置付けました。

行事及び事前・事後指導の各段階、また、各時間ごとに設定した目標の達成状況を把握するために、生徒による自己評価と教員による観察評価を実施しました。

学習段階ごとに位置付けた評価



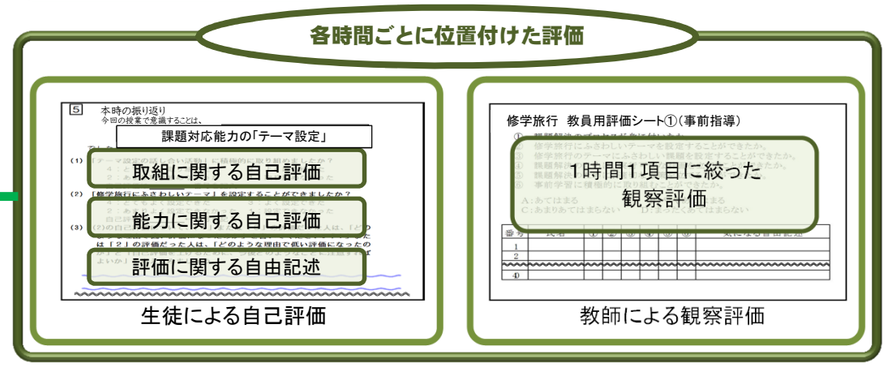
Point Ⅱ　生徒による自己評価で身に付いた能力の自覚を促しました。

各時間ごとに設定した目標に対して、毎時間自己評価を実施しました。また、各学習段階の終了時に、振り返りシートへの記入を行いました。

Point Ⅲ　評価の位置付けにより教員の足並みを揃えた指導の実現を目指しました。

評価を位置付けた教育活動により、教員が目標をしっかりと把握することができ、足並みを揃えた組織的な指導を行うことができました。

各時間ごとに位置付けた評価



工夫④　各時間におけるワークシートの活用

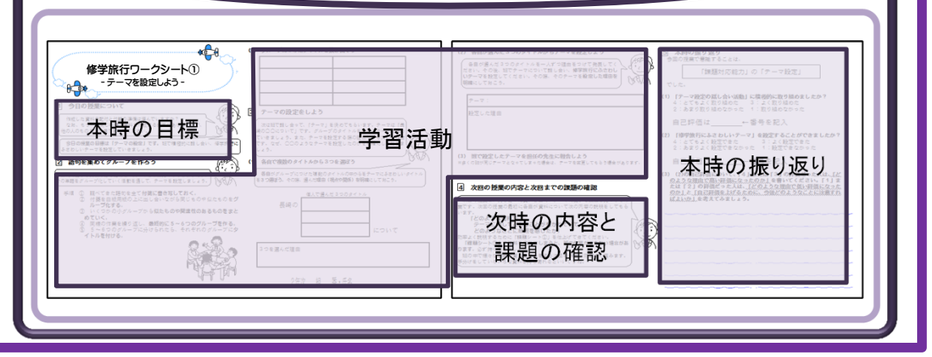
Point Ⅰ　本時の内容（目標・展開等）及び次時の内容や課題を把握しやすくしました。

最初に「本時の目標」の項目を設定し、生徒が学習の流れをつかめるようなワークシートを作成しました。また、授業の終わりには「次時の内容と課題の確認」の項目を設定しました。

Point Ⅱ　「振り返り」を確実に行い、目標の達成状況を確認しました。

「本時の振り返り」の項目を作り、自己評価させ、学習内容の確認と身に付いた能力の自覚を促しました。

目標・評価等を把握できるワークシート



研究の結果と考察

今回の実践では、協力校の先生方にもプログラムを活用した授業を実施していただきました。

事前指導の段階

結果　9割以上の生徒が学校行事に目的意識をもって、主体的に取り組むことができました。(生徒による自己評価より)

考察　各時間ごとに適切な目標を設定し、評価を明確に位置付けた教育活動により、事前指導が充実し、生徒が行事における目的意識や主体的な取組への意欲をもちました。

取組に関する生徒による自己評価

時間	積極的に取り組めたか (%)	能力が身に付いたか (%)
1		89.2
2	89.2	100.0
3	91.9	97.3
4	89.2	94.6
5	94.6	94.6

数値は「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計の割合

事前指導の充実

約97%の生徒が主体的に取り組みました

課題解決のために努力できましたか

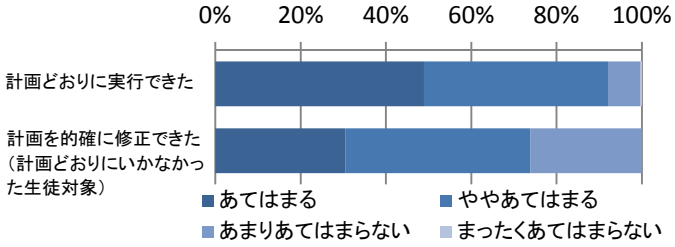
あてはまる	58.7	97.1
ややあてはまる	38.4	
あまりあてはまらない	1.8	2.9
あてはまらない	1.1	

数値は生徒による自己評価の割合

学校行事の段階

結果　9割以上の生徒がほぼ計画どおりに実行できました。計画どおりにいかなかった場合でも7割以上の生徒が課題解決を最後までやり遂げました。(生徒による自己評価より)

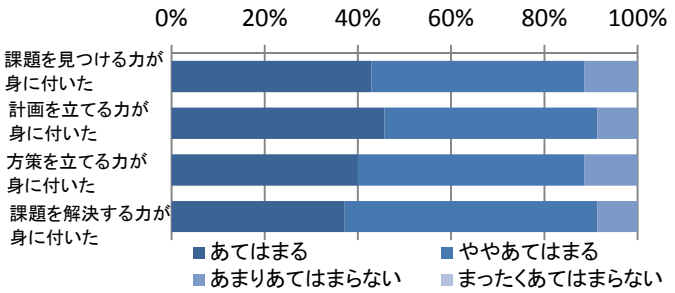
考察　目的意識をもった主体的な生徒の取組の状況を把握するための評価を明確に位置付けた教育活動により、生徒が基礎的・汎用的能力を身に付ける活動を積極的に行いました。



事後指導の段階

結果　約9割の生徒が課題対応能力第2ステップを達成できたと自覚しました。(生徒による自己評価より)

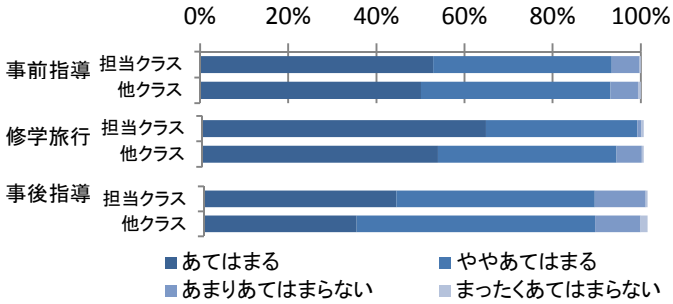
考察　目標の達成状況を把握するための評価を明確に位置付けた教育活動により、事後指導が充実し、生徒が課題対応能力第2ステップを達成することができました。



プログラムの汎用性

結果　各段階における身に付けさせたい能力に関する自己評価の数値の合計を比較したところ、すべての活動段階においてほぼ同様のよい結果が得られました。

考察　他の教員が同じプログラムを使用して指導を行うことにより、プログラムに汎用性があることが分かりました。



成果と課題

成果

- 行事及び事前・事後指導の各段階において、各時間ごとに目標を設定し、評価を位置付けた教育活動により、生徒の目標把握と教員の足並みを揃えた指導を行うことができた。その結果、すべての段階において目的意識をもち主体的に取り組む姿勢を養うことができたと同時に、効果的に基礎的・汎用的能力を育成することができた。
- 本プログラムは、複数の教員による指導においても、生徒の自己評価の結果はほとんど変わらないものであったことから、基礎的・汎用的能力を育成するための指導計画として汎用性のあることが分かった。

課題

- 生徒による自己評価では、自分自身をやや甘めに評価する傾向がうかがえたので、相互評価やポートフォリオを活用した評価等を行う必要がある。また、教員による観察評価では、評価する時間が十分にとれない状況もあったので、観察評価には更なる工夫が必要である。
- 基礎的・汎用的能力の育成を促す本実践に当たり、キャリア教育の必要性に関する各教員の認識の違いを感じた。キャリア教育に関する理解を深めるための教員を対象とした研修の充実が必要である。

問い合わせ先　群馬県総合教育センター
担当係：高校教育研究係　0270－26－9214(直通)